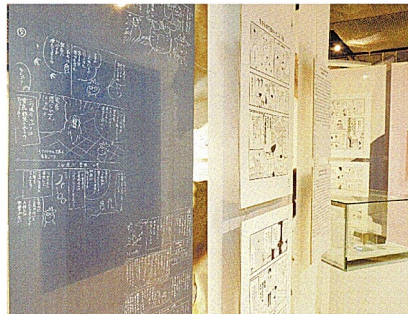


「百姓貴族」で 農業より深く

幕別町出身の漫画家荒川弘さんの農業エッセー漫画「百姓貴族」を題材にしたユニークな展覧会が、東京農業大学「食と農」の博物館（都内世田谷区）で開催されている。複製原画と同大教員らの解説パネルが並び、漫画を入りに農業への理解を深めることができる。

展覧会の名称は「荒川弘〈百姓貴族〉×TOKYO NODAI 2022」。百姓貴族の複製原画80枚を拡大して展示。漫画に関連した話題や同大の研究内容を伝える解説パネルは30枚あり、読み応えがある。漫画に登場するヒグマやエゾシマリスの剥製、搾乳機やバターを製造するたるの道具「バターチャー」もあり、立体的に農業を捉

荒川弘さん漫画題材 東京農大で展覧会



タペストリーに配置された荒川さんのネーム（左）。貴重な制作過程に触れることができる



入り口には撮影スポットも。写真のモデルは西嶋学芸員

えることができる。

「ヒグマに勝つ方法」解説パネルの内容は多岐にわたる。ヒグマ出没の話題を描いた漫画の横には、「ヒグマに勝つ方法」とのパネルを設置。「鎌やなたで撃退した事例もあるが、形成外科で何度も修復手術を受けるような大けがをする可能性が大。強盗に遭ったからの方策を一生懸命考

えるより、遭わない工夫を皆さんは普段しているはずです」と冷静に分析し、クマよけ鈴を下げるなどの対策を推奨している。

法律の観点から、農業にまつわる犯罪を解説したパネルも。畑の作物を持ち去ると「窃盗罪」、畑に無断で立ち入ると「軽犯罪法」に触れると指摘。さらに、捕まえて来た人を突き飛ばして逃げると「強盗」、突き飛ばされた人がけがをする

シの仕組みを利用したステンス製カトラリーを紹介している。

西嶋学芸員は「展示に関わるクイズを用意し、楽しみながら深く理解できるよう工夫した。百姓貴族を通じて農業の奥深さを感じてもらい、東農大の研究内容を知ってほしい」と話す。

展覧会は来年3月4日まで。入館無料。詳細は同博物館ホームページで確認できる。（池谷智仁）

「ヒグマに勝つ方法」

複製原画やユニークパネル



荒川さんの複製原画や解説パネル、ヒグマの剥製などが並ぶ会場

と「強盗致傷罪」が成立し、最大で無期懲役が科されると警告している。規格外農作物や馬頭観音、スマート農業に関するパネルもある。

荒川さんのネームも会場内のタペストリーには荒川さんのネーム（コマ割りやキャラクター配置などを大まかに表したもの）を配置、貴重な制作過程に触れることができる。また、生物の特性を生かした最先端の研究成果として、薄い膜を重ねて発色するタム